



Title	大学院研究留学生のための基礎日本語教材の開発 : 日本語研修コースにおける実践から
Author(s)	義永, 美央子; 戎谷, 梓; 村岡, 貴子
Citation	多文化社会と留学生交流 : 大阪大学国際教育交流センター研究論集. 2012, 16, p. 73-87
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/50710
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大学院研究留学生のための基礎日本語教材の開発

ー 日本語研修コースにおける実践から ー

義永 美央子*・戎谷 梓**・村岡 貴子***

要 旨

本稿では、国際教育交流センターが全学向けに提供する、集中的な日本語研修コースのための基礎日本語教材の開発について報告する。これらの教材は、いずれも学習者である大学院研究留学生の在学段階等の属性に特に配慮したもので、ナラティブを活用した入門と初級の教材である。本稿では、まず、当該コースおよび教材開発の背景を説明する。次に、これらの教材の目的や特徴を述べつつ具体的に教材を紹介する。さらに、これらを試用した2011年の教室運営について振り返った上で、今後の課題をまとめる。

【キーワード】 大学院研究留学生、基礎日本語教材、日本語研修コース、入門レベル、初級レベル、読解リソース

1 はじめに

本稿は、大学院研究留学生のための基礎日本語教育用の教材の開発について報告するものである。ここでは、まず、教材開発の背景として、当該教育を実施している日本語研修コースの特徴について、適宜先行研究も引用しつつ説明し、また、新教材のねらいについて述べる。

1-1 日本語研修コースと受講者の背景

国際教育交流センターが提供する日本語研修コースは、全学向けの大学院レベルの留学生を対象とした集中的な日本語学習機会である。本コースは、日本語レベルによって入門、初級、中級前半の3クラスから成る、1週12・16コマ開講で半期15週間のコースである。本稿では、そのうち、入門と初級の各クラスの教材開発について取り上げる。受講者である留学生（以下、学習者）は、基本的に大阪大学の大学院に進学する予定の国費大使館推薦の留学生、他大学進学者も含む国費教員研修生、および学内選考で受講者となっ

た大学院生や研究生である。

このような日本語研修コースの特徴は、1) 学習者の属性、2) 緊急度の高い日本語学習ニーズ、3) 日本の大学院等における研究活動へのソフトランディングの3点に分けられる。これらについてそれぞれ説明する。

1) については、年齢層や社会人経験の有無、および専門分野のそれぞれにおいて多様性が認められる。

まず、学習者は、母国で大学学部を卒業した、あるいは若干名が大学院修士課程を修了した大人であり、社会人経験のある者も含み、年齢的には20代前半から40代近くまでである。母国で教鞭をとっていた助教・講師クラスの若手研究者、あるいはビジネスパーソンや公務員としての実務経験を有する者等、多様である。そのため、学部生として外国語の単位を修得する若い学習者とは背景がかなり異なる。

また、彼らの専門分野も多岐にわたり、理工系、歯歯系、および人文社会系の学習者が混在している。毎期理工系が多く、全体的には文系より理系の方が多い傾向が続いている。2009年から2011年までの合

*大阪大学国際教育交流センター准教授
***大阪大学国際教育交流センター教授

**大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

計6期3年間のコース受講者の専門別割合は、理工系が58%、医歯薬系が13%、人文社会系が29%である(上記2年間の『国際教育交流センター年報』のデータと本年度のデータをもとに算出)。

さらに、学習者は世界の多くの国・地域から来日しており、2011年度の2期全体では、3クラスの合計で30カ国から55名の受講実績がある。

2) については、本コースを受講する学習者は、可能な限り短期間で集中的に第二言語としての日本語の学習を行う者で、そのニーズは緊急度の高いものである。例えば、入門期のレベルでは、文字表記や簡単な口語表現の学習から開始して、学期末に、教員や関係者の支援を適宜得ながら、専門分野のトピックについて比較的平易な日本語で、パワーポイントを駆使して5~7分程度のプレゼンテーションを行うレベルに達する。このような学習者は、大学院入学後には、授業の履修や実験等の研究活動で多忙を極めることも多々あるため、入学前に効率よく日本語学習を行いたいという希望を強く有する者である。なお、指導教員からも、授業のある昼間の研究活動が行えない旨、あらかじめ承諾書を得ている。

3) については、特に理工系と医歯薬系の場合には、既に、いわゆる研究室のメンバーとして研究活動を開始、あるいは、研究室でのセミナー等のアカデミックな活動に参加する者も少なくない。そのような場合、当該学習者は、ほぼ毎日、日本語の授業が終わった夕方近くから研究室へ直行し、セミナーや実験に参加することもしばしばである。その傍らで、研究生の場合には、専門分野にかかわらず、大学院の入試を控えている者がほとんどであり、彼らは来日して6か月後あるいは1年後に大学院の入試に挑戦する。

このように、本コースは、本格的な研究活動への準備期間として位置付けられる。つまり、大学というコミュニティへの参入者が、異文化適応にも深刻な問題を抱えず、学位取得等の日本留学の目的を達成するためのソフトランディングが可能となるよう、教育と学習支援を行う場である。したがって、本コースは、狭義の語学学習の場ではなく、留学の初期対応としての、大人の学習者に対する日本語教育の場である。なお、

本コースの学習者の研究室への適応等について、コース終了後の追跡調査としてインタビューをもとにした研究が、新矢・村岡(英)(1997)、東保・三登・村岡英(1997)、村岡(英)(1997)、米田(1997)、およびソーヤー・三登(1998)等、本紀要のバックナンバーに掲載されている。

1-2 教材開発のための基本方針

前節で説明したような特徴を持つ日本語研修コースの運営には、英語教育学のアカデミック・ライティング教育研究で著名なSwales(1990)において提唱されている、学術上あるいは職業上の関心を同じくするネットワークとしてのdiscourse community「ディスコース・コミュニティ」という概念が有用である。すなわち、特定分野のコミュニティにアクセスし、その構成員として自身の研究活動を行っていくための言語学習を必要とする考え方であると言える。

また、入門や初級レベルであれば、当初から目標言語で口頭発表や論文作成を本格的に行うことが困難なため、その準備のために、Johns(1995)が述べた‘classroom genres’(教室ジャンル:大島2003, p.203)を活用する必要がある。つまり、ライティングを例にとると、‘authentic genres’(現実のジャンル)であれば、「申請書、メモ、報告書、雑誌論文等」等が例示されるが、教室ジャンルでは、「課題レポートや論述試験」等が考えられる(大島2003)。

なお、本稿で扱う学習者に関しては、日本語レベルが高くないため、論述試験等は困難であるが、専門分野に関する簡潔な説明をもとにしたプレゼンテーションの発表原稿や、研究生活に関する短いエッセイ等は学期後半には導入が可能である。

先述したように、本コースを受講する学習者は、一定程度以上の知的水準にある大人の集団であり、自身の専門分野を有し、かつ、日本語を用いてその分野へのスムーズなアクセスを行おうとする者である。そのため、このような学習者は、短期間の集中的な学習機会に、効果的に教室ジャンルを活用して、日本語能力の獲得を目指す必要があると言える。

一方、大阪大学全体を見渡すと、留学生30万人計

画や文部科学省のグローバル30などの流れにより、留学生数を3000名まで増加させる計画がある（大阪大学公式ホームページによると、2011年5月現在の留学生数は1780名）。日本語教育に関して言えば、留学生の量的増加（およびそれに伴う質的变化）に対応するための日本語教育システムの構築とそれを支える具体的なリソースの開発が急務である。このような問題意識の下、国際教育交流センター日本語教育研究チームでは「留学生大量受け入れ時代に向けた大学における新たな日本語教育スタンダードの構築（平成21年度科学研究費補助金基盤研究(B)、課題番号21320093、研究代表者西口光一）」と題する研究プロジェクトを立ち上げ、OUシステム（日本語教育システムとリソースの総称）の開発に取り組んでいる。本稿で紹介する大学院研究留学生のための基礎日本語教材の開発も、この流れに沿ったものである。

以下の第2章では、2つのレベルの教材開発について、それぞれ教材開発の実際、および教室運営の実際に分けて報告を行う。

2 教材開発と教室運営の実際

ー日本語研修コースの入門・初級クラスの場合ー

本章では、2-1で初級の読解リソースについて、2-2で研究留学生の基礎日本語のマスター・ナラティブについて、それぞれ教室運営の実際も合わせて報告する。

2-1 日本語研修コースBクラス（初級クラス）の場合 ー初級後半の読解リソースとしてー

本稿では、2011年4月から8月、および2011年10月から2012年2月までの各学期の授業で試用した読解リソースについて、1) リソースの目的、2) リソースの構成と特徴、3) リソースに付随するタスクシート、4) 実施とフィードバックの4点に分け、適宜、事例を紹介しつつ報告する。なお、上記期間の学習者は合計16名である。

2-1-1 読解リソースの目的

本読解リソースのタイトルは、『日本で学ぶ大学院留学生の研究生活 日本語読解リソース』である。本書は、大学院生の研究生活というトピック中心の比較的汎用性の高い、専門基礎日本語レベルへの橋渡しとして、専門基礎的な漢字語彙や助詞相当語等の機能語を徐々に導入する一方で、研究生活への意識化を図り、かつ、学習目的の再認識および学習へのモニターをさせつつ運用能力の向上を狙う。つまり、1) 研究生活というトピックを活用し、2) 書記言語を徐々に導入し、3) 学習へのモニターによるメタ認知能力(O'Malley&Chamot,1990; Oxford,R.,1990.)の向上を目指す。本コースの学生は、集中的な日本語学習や研究室での活動、あるいは大学院入試の準備等、多忙な日々を過ごす。そのため、メタ認知能力の向上は、学習の計画や管理、モニター等、研究活動の遂行にとって非常に重要であり、本コースの教育方針としても有用なものと言える。

以上のように、本リソースは、漢字語彙も含め、音声言語中心の初級日本語から書記言語を導入する中級日本語への橋渡しも視野に入れながら、学習者が自身の目指す専門的な場面における日本語使用のモデルとして活用することを期待して作成されている。

2-1-2 リソースの構成と特徴

本読解リソースは、10のユニット(Unit)から構成される。各ユニットのタイトルは表1の通りである。いずれも、日本の大学院に在籍する院生の研究生活を、2名の登場人物のナラティブによって説明した文章である。

これらのユニットごとのタイトルは、表1に示したように、あくまでも研究生活の1コマを示すものとして文章内容を反映するものとした。つまり、従来の文型シラバス中心の教材で見られたような、そこで扱う文型(例:「～させられました」等)を入れたタイトルではない。

登場人物は、表2の通り、文系の博士課程に在籍する女性のキムさんと理系(実験系)の修士課程に在籍する男性のシモンさんである。このように、在籍す

る大学院の課程、専門分野、性別に違いを持たせてある。

各ユニットに示されている本文のナラティブは、それぞれ、基本的には、「院生室」や「研究室」、「研究科」といった場面において、指導教員や先輩、後輩、秘書の方等との間で行われる種々のコミュニケーションを通じたインターアクションを、各登場人物が、トピックに応じて主観的あるいは客観的に説明した記述内容となっている。本書は、会話のスタイルは採用しておらず、コミュニケーションの場面、および、そこで、登場人物が種々検討したり行動したりしたことを、彼らの言葉で語らせる設定となっている。

表1 読解リソースの目次

ユニット番号	ユニットタイトル
1	毎日の生活 —大学院生の日常生活—
2	研究生活の楽しみ —仲間とのコミュニケーション—
3	研究と将来 —研究と個人の生活—
4	研究生活の環境 —キャンパスでできること—
5	情報の収集 —先輩や事務の人からの情報収集—
6	研究上のサポート —先輩や事務の人からのサポート—
7	研究発表の準備 —修士論文の中間発表とポスター発表—
8	研究活動上のルール —研究科や実験室のルール—
9	大学院生としてのトレーニング —文献講読やプレゼンテーション—
10	時間に追われる日 —時間の管理の重要性—
—	ユニットごとの単語チェックリスト

表2 読解リソースの登場人物に関する情報

	キムさん	シモンさん
性別	女	男
大学院の課程	博士	修士
専門分野	教育学	物理学
研究テーマ	eラーニング開発	ナノテクノロジー

これらのナラティブは、それぞれ資料1・2に例示するように、基本的理念と文法項目について準拠して

いる、本センターで開発された基礎日本語教材 NEJ (A New Approach to Elementary Japanese Vol.1&2: 以下 NEJ) と同様、見開きで、同じユニットの文章をふりがなの有無で2ページにそれぞれ掲載している。これは、必要に応じてふりがな有りの文章を活用するものとし、各ユニットの学習の最初から、ふりがな有りの文章のみを読ませることを意図しているわけではない。授業ではまず、ふりがな無しで可能な限り速読して内容の概略を把握するといった読み方に挑戦させる。

資料1 文系博士課程の留学生のナラティブ例

キムさん

わたしは、院生室で中間の院生と話すのが好きです。ふだんは、みんなパソコン室で論文の執筆をしています。休憩や食事の時間には、院生室に集まって、話をしながら食事をします。話すときは、それぞれの研究について話し合うのが大好きです。情報が少なくて困っている院生に情報を提供したり、参考文献を教え合ったりして、研究に役立つ会話をしています。

大学院生はとても忙しいので、趣味のための時間がなかなかありません。しかし、多くの文献を読んで、調査の予定を立てるのは、とてもおもしろいです。

資料2 理系修士課程の留学生のナラティブ例

シモンさん

わたしの実験室では、いろいろなことに気をつけなければいけません。例えば、実験室では、火が出るような作業をしてはいけませんし、お弁当を食べることもできません。先輩からは、おにぎりやパンなどの軽食であっても、絶対に実験室で飲食してはいけないと言われていました。

実験室の近くには、すぐに化学反応を起こす材料や、危険な薬品ばかり置いてあります。前に一度、雨にぬれたカバンを実験室へ持ち込んだだけでも、先輩にしかられたことがあります。

なお、最後には読み方を併記した単語チェックリストを設けている。授業の中で、あるいは自習用としての活用方法が考えられる。

これらの構成は、リソース自体が基本的に、NEJに準拠していることから、文法項目（例：授受表現や受け身表現等）については、提出順序を踏襲している。一方、漢字語彙を含む表現は、トピック重視のため、学習者が大学院レベルであることに配慮したものを厳選し、また、文脈上必要とされる表現について、必ずしも個々の漢字の難易度やユニットの順位にはかかわらず提示した。

基本的にトピックが研究生生活を場面とした内容であるため、ユニットを越えて何度も出現する表現もある。例えば、漢語名詞で言えば、「研究」「論文」「実験」等である。これらは、むしろ繰り返し各文脈に取り入れることにより、特に定着を図ることを意図した重要な表現である。これらの表現は、研究活動自体を説明する際にも、研究室で先輩とコミュニケーションを行う場合にも必要なものであるため、それぞれ場面が異なっても、繰り返し出現する基幹語彙とも言うべきものと考えられた。

2-1-3 リソースに付随するタスクシート

資料3に例を示すように、各ユニットの読解が終了した直後に復習させるタスクシートを準備した。

これらは、漢字語彙の書き方と読みを問う問題、文法の正誤判断をさせる問題、および、文章の流れから結束性のある接続表現等のメタ表現を選択させる問題、の3種類から構成される。ユニットによって強化すべき指導項目が異なるため、3種の問題の分布はユニットによって異なる。

授業実践上、このタスクシートは、読解の直後に行うことが特徴的である。特に注目してほしい表現等を中心に取り上げているため、読解直後に解答を書かせる方法が効果的であり、また、一定期間の学習後に試験を実施する場合には、試験の出題範囲の目安ともなると考えられる。

なお、先述の通り、複数のユニットに繰り返し出現する、研究留学生向けの表現については、ユニットが異なるタスクシートに複数回出現させてもよいと考えた。それは、表現や文法を、異なるナラティブのコンテキストにおいても何度か学習し、一直線ではなくス

パイラルに表現等の習得を進めることが実際的で効果的であると考えられるためである。

資料3 読解リソースのためのタスクシートの例

キムさん

わたしは、年に1、2回（）で発表します。
がっかい（漢字で）
自分で研究することは大切ですが、ときどき学会発表をすると、他の研究者や学生にも、自分の研究を（）もらえます。また、質疑応答や発表後の会話のときに、他の研究者が考察のポイントを教えて【あげる・くれる・もらう】こともあります。多
to know
Circle the correct one.
くの研究者と情報交換することは、（）研究
objectively
を行うために重要です。

わたしは、学会で知り合った先生には、名刺を渡します。学生にもあげます。わたしも名刺をもらったら、あとで（）。そうしたら、その人も
（I） will send an e-mail.
メールを送って【あげ・くれ・もらい】ます。この
Circle the correct one.
ようにして、学会が終わったあとも、研究のための情報交換をしています。

2-1-4 教育の実施とフィードバック

ここでは、本リソースを活用した読解クラスの実施方法について説明し、また、最終授業の後に課されたエッセイの例を紹介し、かつ、学生からのフィードバックとしての評価について簡単に報告する。

本リソースを活用したクラスは、週1コマ開講の半期15回である。ただし、コース開始時には、ひらがなとカタカナの産出が必ずしも完全ではなく、漢字認識も100に満たない学習者もいたため、リソースを使用する以前に、文字認識の程度の確認を含め、速読と精読の違いについて、市販教材を用いて読解授業を実施した。その後、リソースを活用した時間は10ユニットの通り10コマ実施したが、残りの4コマでは、修了発表会や複数回の個別インタビューを行った。上記10コマの授業運営は次の通りである。

(1) 学習者による黙読

(2) 教員からの内容に関する質問（速読を意図し

たもの：スキミングとスキヤニング)

- (3) 教員による音読
- (4) 学習者による表現等に関する質問
- (5) 教員からの重要な表現や文法についての解説
- (6) タスクシートへの記入と答え合わせ
- (7) 付録の単語リストを活用した、表現の復習

上記のうち、(1) と (2) に示したように、学習者には音読させず、まず文章全体の把握を試みるようにさせ、概要把握のチェックを、教員からの質問によって行った。

(3) については、精読も意識し、本文にもふりがなを付しているが、音声としても確認するために行った。

(4) と (5) については、文章全体というより、部分の正確な解釈のために質問を受け付けるものであり、板書を活用して行った。これは、NEJ を主教材として併用していることから、文法事項も視野に入れているが、それにとどまらず、むしろ、ナラティブの文章に出現した研究活動にかかわる表現を漢字表記も含めて扱うことを意識した。

(6) と (7) で、最終的にユニット全体の表現の復習を、発音練習も含めて復習し、定着を図った。

以上の授業を 10 回実施した後に、学習者には自身の研究生生活（過去から現在に至るまでの、あるいは現在の）について A4 用紙 1 枚程度のエッセイを課した。

以下に 2 編のエッセイ (a) と (b) の一部を例示する。明らかな漢字の誤用のみを修正し、かつ、個人情報保護のため、国籍の該当箇所はアルファベットで伏せる。

(a) (前略) 私の教授はとても優しい方です。教授は私が研究の相談へ行くと、研究のためのいろいろなアドバイスをくださいます。研究科の先生も、先行研究についての情報をくれます、実験の機械や薬物を正しく使うために、よく指導教員の実験を見せてもらいます。指導教員は、いつも丁寧に教えてくれます、私は実験をして、実験の仕方や薬物の使い方を覚えます。博士課程では、あまり授業を履修しません。毎週研究

室に先生と一緒にセミナーします。セミナーで研究テーマについて話し合ったり、調査の相談をしたりします。時々、研究に関連する文献を読んだり発表したりします。(後略)

(b) (前略) 毎週火曜日と金曜日には、教授と学生たちが皆集まってセミナーをします。学生たちは順番を決めて自分で論文を読んで研究室の皆に自分が勉強した知識を知らせてくれ、教授と討論をして新しい知識を習う時間をもってします。まだ日本語がうまくできないからセミナーの内容を理解することが難しい時間ですがよく聞くために熱心に努力しています。

学校生活に必要な書類はたいてい日本語になっていて読むことが難しいです。でも私の研究室には A 国人の先輩が 3 人いますから書類の処理をする時、大きい困難を経験していません。また日本の友達も親切にいろいろ教えてくれ、留学生の事務室で多くの情報を教えてくれますから日本生活をよくすることができます。私は日本へ来て多く助けをもらっていますので、いつも感謝する心で生活しています。

(a) と (b) のいずれのケースも教員側が指定しなくとも、自身で単語リストを作成し、漢字の読み方と英語の訳を付けた表を添付していた。

(a) では、先行研究、実験、薬物、セミナー等の表現を用いており、従来から存在する一般的なトピックの教材では獲得しにくい表現も頻用されている。

また (a) では、本人が所属する研究室で決められた曜日のセミナーの状況、同国人の先輩からもサポートを得ながら大きな困難なく留学生活が送れている状況と感想が率直に描かれている。

最後にこのリソースを活用した教育実践に関する学生側からのフィードバックについて、簡単に報告する。

実施した 2 期とも、コース全体のアンケートと個別インタビューを行い、その中で得られたリソースと読解授業に関する具体的なフィードバックの主なものを抽出する。

「授業時間をさらに増やしてほしい」

「テストをして表現を覚えればもっと覚えるからい

い]

「研究室で実際に表現が使えるようになった」

「まだ研究室に入っていないが、博士後期に進学するので、英語では研究に関する概念や表現を知っていて、この授業では日本語でそれが学べてよかった」

また、漢字に苦手意識のやや強い学生からは、「漢字語彙が難しい」

というコメントがあった。学習者の背景が漢字圏であっても非漢字圏であっても、漢字習得がまだ不十分なケースは、読解への苦手意識が漢字へのそれと直結する可能性があると思われる。

2-2 日本語研修コース A クラス(入門クラス)の場合 — 研究留学生の基礎日本語のマスター・ナラティブとして —

2011年10月から2012年2月までのAクラス(学習者9名)では、NEJ(A New Approach to Elementary Japanese Vol.1&2: 2-2-1 参照)の理念を生かしつつ、さらに研究留学生の特性に合致したナラティブを柱とする新教材を開発・試用した。以下、この新しいナラティブの目的および構成と特徴、そして、新ナラティブを用いた授業運営の実際と受講者からの評価について報告する。

2-2-1 ナラティブ作成の目的

NEJは、本センターにおける基礎段階の日本語教材として開発された日本語教材である。詳細は西口(2010, 2011)に詳しいが、端的に言えば「自己表現活動中心のマスターテキスト・アプローチ」に基づき、「マレーシアから来た留学生のイー・アイリン」、「工学部4年生の山川あきお」「日本語の西山先生」の3人が各課のテーマについて語る構成をとっている。しかし、西口(2010: 10)に「例えば、教育の主な対象が新規渡日の大学院進学予定者の場合であれば、そうした留学生をモデルとした登場人物の下にセクション1からセクション3(それぞれ、「登場人物の独話のディスコース(セクション1)」、「セクション1の教材を基に教室で教師と学習者の間で行われるである

う質疑応答のディスコースの一例(セクション2)」、「セクション1のディスコースの内容を第3者の立場から行った語りのディスコース(セクション3)」: 筆者注)のような教材を作成し、それを補助教材として教育を実施することが期待されている」と記述されているように、学習者がある程度統一的なカテゴリーに属するクラスでの教育実践での場合は、当該学習者集団の個別性に合わせた教材の開発が望ましい。

そこで、基本的な理念や構成はNEJに準拠しながら、登場人物をBクラスの読解リソースと同じ「キムさん(文系、大学院進学予定の研究生、韓国出身、女性)」と「シモンさん(理系、修士1年生、ブラジル出身、男性)」の2人にしたナラティブを新規に開発し、2011年度秋学期の授業において、大学院研究留学生用教材「A New Approach to Elementary Japanese for Graduate Students(以下GS)」として試用した。

GSは、親教材であるNEJと同様に、登場人物の独話(ナラティブ)の中に各課の学習言語事項(文型・文法事項、語彙、各種表現など)を網羅している。学習者はこれらのナラティブを学習する中で各種の言語事項を理解し、それを適宜借用しながら、最終的には各課のテーマに関する自己表現活動の遂行に至ることが期待されている。各課の詳細は次節で詳述するが、登場人物を学習者と近似した人物として設定することにより、学習者に教材への親近感を持たせるとともに、自己表現活動のための言語事項の借用元としてより効果的に機能することを狙いとしている。

2-2-2 各課の構成

GSは全2巻で構成されており、ユニットごとに種々のテーマを設定している。各ユニットのテーマおよび学習目標、主な文法項目(テキストではMain Grammar Pointsとして提示)、語彙・表現(テキストではUseful Expressionsとして提示)の一覧は付録資料2・3の通りである。

第1巻は12のユニットから成り、基本的にNEJのユニット構成を踏襲しているが、一部、研修コースおよび受講生の特性にあわせた改変を行っている。具

体的には、研修コースでは毎学期、約9～10週間の学習終了時点で「私のこと」をテーマとする中間発表会を開催し、受講生は自分や家族、あるいは母国の文化等について5分程度のプレゼンテーションを実施する。これらの準備にも利用可能なユニットとして、「わたしの国、わたしのまち」と題し、シモンさんのホストファミリーが大阪について語るユニット（ユニット6）、キムさんが韓国と日本を比較して語るユニット（ユニット7）を設定した。また、従来受講生から要望の高い「日本の文化や社会を知る」ためのユニットとして、「結婚式（ユニット9）」を設けた他、他のユニットでも、日本のさまざまな生活習慣に随時言及している。さらに、研究留学生の知的欲求を満たすユニットとして「わたしは母を尊敬しています（ユニット10）」を設け、キムさんの尊敬する人として緒方貞子氏を紹介する他、「～ています」を使いながら、各界の有名人や著名な研究者などを紹介する課題を課している。

第2巻も第1巻と同じく全12ユニットであるが、この巻ではコース終了後の研究室での生活を視野に入れつつ、より大学院生の生活に特化したナラティブを含めている。具体的には、登場人物2名のうち、1名（主にキムさん）は比較的日常的・一般的な内容のナラティブ、もう1名（主にシモンさん）はより研究に関係した内容のナラティブを語るようにした¹。例えばユニット18「いろいろな人に助けてもらいました」の場合、キムさんは「兄は大使館にいっしょに行ってくれました。（中略）友だちもたくさん空港に来てくれました。」のように、来日前の準備や見送りについてのナラティブを語る一方、シモンさんのナラティブは、キムさんと同じく授受補助動詞の「～てもらう、～てくれる」を使いながら、「ときどき、漢字やことが難しく、読むことができません。そんなとき、研究室の秘書の人に手伝ってもらいます。秘書の人は、いろいろな書類を読んで、説明してくれます。」のように、研究室の秘書の人にしてもらったことを説明するようになっている。

入門期の日本語学習では、日本語の基本文型・基本語彙の導入が大きな目標となるが、それらを単なる言

語項目として提示するのではなく、登場人物の語りに埋め込んだ形で提示し、さらに、学習者それぞれの自己表現につなげていく点がNEJおよびGSの大きな特徴といえる。またGSでは研究留学生の知的レベルと生活実態を考慮し、「研究」「論文」「実験」などの研究に関する基幹語彙（2-1-2参照）や、日本での生活の中で必ず必要となる語彙（例えば「手続き」「大使館」「奨学金」など）に関しては、いわゆる「入門・初級」レベルを越えたものであっても、必要に応じて随時導入している。

参考として、ユニット14「本を読むのが大好きです」のナラティブの例を資料4、5として紹介する。

資料4 キムさんのナラティブ例

わたしは、本を読むのが大好きです。子どものときは、いつもうちで本を読んでいた。弟は、本を読むのはあまり好きではありません。マンガを読むのは大好きです。弟の趣味は、マンガを読むことと、サッカーをすることです。

わたしは、音楽を聞くのも好きです。姉も、音楽を聞くのが大好きです。姉もわたしも、Jポップが好きです。

子どものときは、日本のアニメを見るのが大好きでした。姉といっしょによくアニメ映画を見に行きました。うちで、アニメのDVDもよく見ました。テレビで、日本のドラマも見ました。

資料5 シモンさんのナラティブ例

わたしは、実験室にいるのが好きです。実験室には、たくさんの道具や機械があります。大きい機械は家で使うことができません。それで、みんなで実験の予定を考えて、平等に実験室を使っています。

わたしはM1（修士の1年生）なので、自分の実験はまだしません。今は、先生や先輩の実験を手伝いながら、実験の方法を勉強しています。そして資料をたくさん読んで、来年の修士論文の計画を考えています。研究の計画を考えるのは、とてもおもしろいです。

2-2-3 授業活動の実際

実際の授業においては、1ユニットあたり5コマ（1コマ90分）を使って種々の学習活動を行った²。

5 コマにおける授業運営は次のようである。

- (1) 語彙の導入
- (2) 学習項目（特にテキストで **Main Grammar Points** として提示されている文法項目）についての解説・練習
- (3) ナラティブの導入
- (4) ナラティブの内容に関する質疑応答
- (5) 自分のことに関する質疑応答
- (6) 発展的活動
- (7) エッセイライティング（宿題）
- (8) エッセイの確認と質疑応答

(1) では、テキストの **Useful Expressions** を用いて、ナラティブに出てくる語彙およびその関連語彙・表現について学習する。**Useful Expressions** では、例えば「研究室」が出てきたユニット 14 では、その関連語彙として「実験室・講義室・会議室」なども紹介している。これらの関連語彙は、後の自己表現の際に借用が可能な、研究留学生の生活に必要な語彙を厳選しているが、授業ではこれらの全てに習熟することは要求していない。**Useful Expressions** は、全てを暗記する単語リストとしてではなく、自己表現の際に役立つ表現の参考例として提示している。

(2) はいわゆる「講義」であり、当該ユニットの学習事項、特にテキストで **Main Grammar Points** として提示されている文法項目について講師が解説し、練習を行う。

(3) (4) (5) は各ユニットのナラティブに関する学習である。まず、ナラティブの内容を確認した後、教室全体、ペア、グループなど多様な形態で質疑応答を実施する。質疑応答は、「シモンさんは、土曜日、何をしましたか。だれといっしょに行きましたか。(ユニット 5・週末)」のようなナラティブの理解確認のやりとりから始め、「あなたは、土曜日に何をしましたか。」という、学習者自身についてのやりとりに発展していくことが期待されている。これらのやりとりは、ナラティブの理解を深めるとともに、ナラティブに含まれる各種の言語項目を使った自己表現を促す

契機となる。

なお、ナラティブの新出事項には、振り仮名や英語による語釈をつけている。また Vol. II のナラティブはテキストの見開き 2 ページを使って提示され、左ページでは漢字に振り仮名や語釈をつけたもの、右ページには左ページと内容的には全く同じで、振り仮名や語釈を除いたものが掲載されている。便宜上、これらのナラティブはテキストに活字で記されているが、授業時には教師が音読して示すなど、文字のみならず音声面でのインプットも豊富に提供するように配慮している。

(6) ではこれまでの学習のまとめとして、さらに発展的な活動を行う。例えば、ビジターの日本人とのインターアクション、教室外でのインタビュー、クラスでのショートスピーチなどである。

(7) にあるように、ユニット終了後には、エッセイライティングを毎回宿題として課した。このエッセイは、各ユニットのテーマに基づき、ナラティブの表現等を参照しつつ、各自が自分のことについて書くものである。また (8) のように、エッセイは担当講師が回収・添削した後、ユニット復習のためのリソースとしても利用される。添削したエッセイを学習者に返却した後、ペアまたはグループ、あるいは教師と一対一で読み合ったり、質疑応答をしたりする。また、学習者が 1 人ずつクラスメートの前でエッセイを発表することもある。

参考として、以下に 2 編のエッセイの全文 ((c) と (d)) を例示する。漢字使用の有無、誤用を含め、学習者が書いたものをそのまま引用しているが、大学・会社等の固有名詞については伏せる。(c) は漢字圏、(d) は非漢字圏出身の学習者によるエッセイであり、それぞれ、ナラティブにあった表現を適宜に借用しつつ、(c) は自分が周囲の人々から受けた援助について、(d) は大学院で見聞きした研究生活の様子について、語るができている。

(c) ユニット 18 「いろいろな人に助けてもらいました」
国を出る時、私は、いろいろな人に助けてもらいました。妻は買い物を手伝ってくれました。母は荷物の

パッキングを手伝ってくれました。友達は公証役場に
いっしょに公証してくれました。職場同僚は留学管理
機関と一緒に手続きしてくれました。

日本では、いろんな手続きを日本語でしなければな
りません。でも、私は日本語を全然分かりませんでした。
だから、漢字や言葉の意味は全然わかりませんでした。
そんな時、色々な人に助けてもらいました。寮
の管理者は入居許可書を読んで、説明してくれました。
〇〇会社（会社名：筆者注）の店員は携帯電話の使い
方を教えてくれました。IRIS（大阪大学の留学生情報
室：筆者注）の先生は、奨学金の手続きしてくれま
した。大阪府の留学生の支援機関の先生は〇〇市役所
と一緒に外国人登録証してくれました。入国管理局に
行って、自分で手続きしなければならない時は、先輩
は地図を用意してくれました。

(d) ユニット 19 「モノレールもあるそうです」

〇〇（学習者の配属される研究科：筆者注）の大学
院生によると、〇〇のじゅぎょうはとでもむずかしい
そうです。先生はきびしいそうです。しゅくだいがた
くさんあるそうです。でも、先生も大学院生もちゅう
じつだそうです。〇〇に行ってみたとき、いろいろな
人とあいました。わたしの先生はやさしそうです。研
究のなかまは親切そうです。研究のひしょの人も親切
そうです。先生によると、日本語の勉強はじゅうよう
だそうです。毎日、日本語をつかうそうです。でも、
ろんぶんはほとんど英語でかくそうです。

なお、A クラスでは週 4 コマの「漢字と語彙」の
授業も開設されており、GS の内容に準拠した漢字練
習シートを用いて漢字および漢字語の学習を行っている。
この授業では、『日本語能力試験出題基準（改訂
版）』の 3 級レベルをほぼ網羅する約 300 の漢字、お
よび、それらを用いた漢字語を学習している。

2-2-4 受講者の評価

GS はまだ試用段階であるが、2011 年度秋学期の
受講生 9 名はこのテキストと授業活動を概ね好意的
に受け止めたようである。以下、受講生が書いた GS

に関するコメントを引用する。

【テキストのトピックについて】

・ The topics are good. Some of the topics are just
using Japanese in daily life.

・ II のテキストのトピックはととてもいいと思います。
I think, topics about Japanese culture could be
added to the textbook.

・ トピックはととても適切だと思います。日本での生活
の経験たくさんあるので、私はいいと思います。

・ The content of GS I&II is relatable and simple
enough for beginners to Japanese language
learning. No change in content or structure is
required.

・ Some topics of GS I&II are unusual but useful.
I like it very much. I would like to learn more
about explaining step by step procedures.

・ テキストのトピックは、ととてもいいだと思います。
However, more vocabulary and study for
individual majors may be introduced to help in
everyday life at research levels.

・ ととてもおもしろかったと思います。キムさんとシ
モンさんの将来の物語はなんですか。

【学習の進め方について】

・ The method of the lessons were good; except the
learning was so intensive. But it is understand-
able because it is an intensive program.

・ I think the method of the lessons is good and
well planned.

・ このテキストでの学習の進め方はととてもいいと思
います。

・ Reversing the order of units and kanji could be
better. It is easy for vocabulary to be understood
without context, but difficult for grammar.

・ I think its very effective and easy to
understand. It also encourages me to study.

・ いいです。

・ テキストでの学習の進め方はよかったですと思います。

“unusual but useful” という感想が示すように、GS が提供するナラティブや語彙は、一般の基礎日本語教材のイメージからはやや異なるものであるかもしれない。しかし、学習者が属する、あるいは今後参加しようとするアカデミックなコミュニティでの具体的な言語活動をイメージしつつ、自分のことを語ることができた点が、“useful” と評価されたのではないだろうか。

また、2巻に渡って統一した登場人物に触れる中で、受講者の中には、登場人物である「キムさん」「シモンさん」へのある種の親近感が湧いたようである。授業中も、「キムさんだったらきっと〇〇というだろうな」あるいは「キムさんとシモンさんが結婚すればいいのに」といった冗談がみられたが、上記の感想にあった「キムさんとシモンさんの将来の物語」という言葉には、自らの今後の留学・研究生生活と重ね合わせながら、登場人物たちの未来に思いを馳せる様子が窺える。

3 まとめと今後の課題

本稿では、大学院研究留学生のための基礎日本語教材の開発について報告した。本稿が報告した各教材は、大学院研究留学生の特性に配慮しつつ、彼/彼女らが今後参加していくことになるアカデミックなコミュニティへの参加の促進と、それを可能にする日本語能力の獲得を両輪とした学習活動のリソースとなるものである。ただし、各教材はいずれも試用段階にあり、一定の学習効果や受講生らの評価は確認できたものの、さらに改善が求められる点も残っている。

まず、読解リソースを活用した授業に関する今後の課題は2点にまとめられる。第一に、研究生生活を描いたリソースであっても、漢字語彙を含む種々の表現については、小テストの定期的な実施が有効であると考えられる。その実施によって、学習者も徐々に獲得する表現を増やしていけると予想され、また、定期的なテストによる復習を習慣化できると期待できる。第二に、集中コースでの実施なので、他の授業での負担とも若干関係するが、この読解クラスでは、エッセイの執筆回数を少し増やし、それへのフィードバックを

組み合わせて、読解とライティングの統合的活動により表現や構成をより効果的に学ぶことが期待できる。エッセイ執筆は、自身の研究生生活の記述や今後の計画について振り返る機会ともなるため、研究への意識化をさらに進める可能性があると考えられる。

次に、GS については、入門コースの主教材として位置づけられるため、関連する副教材の開発が喫緊の課題である。たとえば先行して開発された NEJ はすでにナラティブの音声ファイルおよび録音 CD が用意されているが、GS については音声教材の開発が今後の課題となっている。また、漢字クラスを含めて週16コマという集中コースの特性上、非常勤講師・TA を含む多くのスタッフが関与するため、授業実施のための連携がさらに求められる。現在は、西口ら(2011)で紹介されている SNS を利用して教員間の引き継ぎを行っているが、授業で使用した各種資料や学生のエッセイ等についても、共通プラットフォームへアップロードすることによってより効率的な情報共有ができると期待される。

最後に、両者の共通した課題として、専門基礎日本語から、次の中級レベルへの橋渡しに向けてさらなる調査分析が必要である。学習者はいずれも研究留学生であるが、来日前の母国等での日本語学習歴や学習方法、およびその教育体制、言語や言語学習についてのビリーフ等は非常に多様である。そういった学習前の背景についても配慮し、さらにクラス運営とリソースの充実について、研究が一層必要であると考えている。

付記

本稿は基本的に執筆者3名の協議に基づくものであるが、2-1は主として村岡と戒谷が、2-2は主として義永が担当した。また本稿執筆においては、平成23年度大阪大学研究支援員制度の支援を受けた。

注

1. 一般的なナラティブは NEJ、研究に関連したナラティブは本稿で紹介する読解リソースのナラティブを基にしているが、一部の表記・表現などについては独自に編集を行っている。

2. 一部のユニットに関しては、4 コマで展開した場合もある。

参考文献

大阪大学HP「外国人留学生数」

(<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/about/data/international.html> アクセス日：2012年2月23日)

大島弥生 (2003) 「日本語アカデミック・ライティング教育の可能性ー日本語非母語・母語話者双方に資するものを目指してー」『言語文化と日本語教育』11月増刊特集号, pp.198-224.

新矢麻紀子・村岡英裕 (1997) 「付加価値型留学にみる目的の設定と留学の成否ー日本語研修コース修了生に対する第1回追跡調査その3ー」『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』創刊号, pp.35-44.

ソーヤー理恵子・三登由利子 (1998) 「工学部研究留学生の日本語使用実態調査ー既習者向け日本語研修コース 修了生と研究室の日本人へのインタビュー調査から」『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第2号, pp.63-76.

東保登紀代・三登由利子・村岡英裕 (1997) 「指導することと指導されることの間ー日本語研修コース修了生に対する第1回追跡調査その2ー」『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』創刊号, pp.23-34.

西口光一 (2010) 「自己表現活動中心の基礎日本語教育ーカリキュラム、教材、授業ー」『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第14号, pp.7-20.

西口光一 (2011) 「基礎日本語の習得と習得支援につ

いてー基礎日本語教育のカリキュラム開発と教材作成を通してー」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第15号, pp.43-54.

西口光一・竹内茜・大谷信也・三牧陽子・村岡貴子・難波康治 (2011) 「OUS カリキュラム開発の現在」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第15号, pp.11-22.

村岡英裕 (1997) 「日本語研修コース修了生に対する第1回追跡調査」『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』創刊号, pp.3-12.

米田由喜代 (1997) 「工学専攻博士後期課程留学生の研究室への適応に関するケーススタディー日本語研修コース修了生に対する第1回追跡調査その1ー」『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』創刊号, pp.13-22.

Johns, A. M. (1995). Teaching Classroom and Authentic Genres: Initiating Students into Academic Culture and Discourses, In Belcher, D. & Braine, G. (Eds.), *Academic Writing in a Second Language: Essays on Research and Pedagogy*, Norwood, NJ: Ablex, pp.277-292.

O'Mally, J.M. & A.U. Chamot. (1990) *Learning Strategies in Second Language Acquisitions*. Cambridge: Cambridge University Press.

Oxford, R. (1990) *Language Learning Strategies: What Every Teacher Should Know*. New York: Newbury House.

Swales, John. M. (1990) *Genre Analysis: English in Academic and Research Settings*. Cambridge University Press.

付録資料 1

読解リソースのユニットごとの目標、主要な文法項目と語彙のリスト

ユニット	テーマ	目標	文法項目	語彙
1	大学院生の日常生活	日常生活（家で、大学で）について順序立てて簡単に説明できる	Vたら、Vから、たり～たり、それから、そのあと	起きる、浴びる、食べる、乗る、着く、履修する、話し合う、話す、書く、手伝える、作る、帰る、くつろぐ、見る、入る、寝る、歩く、発表する、参加する、かかる、買う
		簡単な理由説明ができる	ので	ある、ない
		頻度の副詞が使える	たいてい あまり～ない いつも ときどき 毎	
		時間の表現が使える	～時に ～分 ～時間	時、分、時間
2	仲間とのコミュニケーション	自分の好みについて簡単に説明できる	Vが好きです、Vことが好きです Vことはおもしろいです 趣味はVことです	話し合う、話す、立てる、いる、置く、溶かす、プレスする、組み立てる、作る、修理する
		研究室での出来事を具体的に例示できる	特に	
		2文以上を使って、因果関係について述べる事ができる	それで	
3	研究と個人の生活	自分の専門について簡単に説明できる	Nを専攻しています、 専門はNです Nを開発しています Nについて研究しています	教育学、eラーニング、システム、物理学、ナノテクノロジー、材料
		今後の予定を簡単に説明できる	思います、つもりです V予定です、考えています	続ける、結婚、大学院、修了、仕事、論文、実験
		将来の不確かなことにも言及できる	かもしれません、しなくてもいい、 まだわかりません	理想、独身、修士号、博士号
4	キャンパスでできること	可能形が使える	Vえる、Vられる、Nできる	使う、利用、温める、冷やす、食べる、買う、沸かす
		1文で因果関係について述べる事ができる	～ので	持つ、売る、自分、コップ
		時間の制限に関する表現が使える	～時まで、～時までしか～ない	
		状況の変化について述べる事ができる	Vようになりました	
		条件表現が使える	～日は、～ときは	疲れる、ご飯、休憩、お茶、飲む、隣、給湯室
5	先輩や事務の人からの情報収集	名詞を使った授受表現が使える	くれる、もらう、あげる	先輩、先行研究、情報、お願いする、参加する、後輩、資料、コピー、学生支援、共有
		授受の際の丁寧な表現が使える	くださる	指導教員、アドバイス
6	先輩や事務の人からのサポート	動詞を使った授受表現が使える、他者の仕事について描写できる	Vもらう、Vあげる、Vくれる	知る、教える、送る、用意する、見せる
		状況の改善や特定の課題の解決方法に関して自分の意見を述べる事ができる	Vことは～です このようにして このように ～ときは Vなければならぬ	研究者、交換、客観的、重要、学会、終わる、手続き、困る、秘書、種類、危険、道具、覚える
7	修士論文の中間発表とポスター発表	他者の状況が説明できる	～そうです ～らしいです ～ようです	忙しい、緊張、がんばる
		コミュニティへの自分の参加の様子について説明できる	Vあげます Vたい	論文執筆、準備、スライド、作り方、ハンドアウト、内容、確認、パワーポイント、ポスター、掲載する、結果、画像、鮮明、処理、工程
		物事の詳細について述べる事ができる	～という	優秀、賞、受賞
8	研究科や実験室のルール	受動表現が使える	Vられる	研究科、事務員、ほめる、しかる
		ルールの説明ができる	～ように言われている、～と言われている、Vなければならぬ、Vてはいけない	清掃計画、気をつける、作業、軽食、絶対、飲食
		特定の組織について簡単に説明できる	Vられる Vている	院生会、建物、備品、教室、環境、活動
		出来事の詳細を説明するための助詞が使える	ばかり だけ	大変、薬品、持ち込む
9	文献精読やプレゼンテーション	研究上の指導に関する受動表現を理解し、運用できる	Vれる、Vられる	基礎、プレゼンテーション
		与えられる指導で得られる益や変化について説明できる	おかげで ～ようになりました ～なります ～できるようになります	関連研究、論理的、文章、考察、文献、仮説、環境、失敗、成功、原因
		数字を使って出来事の頻度について説明できる	～ヶ月に…回 ～週間に…回	
10	時間の管理の重要性	状況に合わせて「てしまう」表現が使える	Vしまいました Vしまったようです	止まる、ウイルス、駆除、入り込む、置いてくる
		状況に合わせて被害受け身の表現が使える	Vられる	心配させる、話しかける
		決定している/した予定について述べる事ができる	Vすることになっている Vすることにする	印刷
		助詞を使って過去の状況説明ができる	～と	戻る

付録資料 2

A New Approach to Elementary Japanese for Graduate Students, Vol. I のユニットごとの目標、主要な文法項目と語彙のリスト

ユニット	テーマ	目標	文法項目	語彙
1	はじめまして	簡単な自己紹介ができる。(名前、国、所属、年齢) クラスメートの自己紹介を聞いて理解できる。相手の出身や身分を尋ねたり、質問を理解して答えたりできる。	～は～です (名詞文) ～の ～何歳ですか	大学の部局、所属 (大学生、工学部など)、国、一人 (国籍)、100 までの数字、など
2	わたしの家族	適切な親族名称を使って、自分の家族の簡単な紹介ができる (家族の人数、年齢、職業)。クラスメートの家族紹介を聞いて理解できる。家族についての簡単な質問をしたり、質問に答えたりできる。	親族呼称 ～人 (人の教え方)	家族 (母、お父さん、など)、学校 (小学校、中学校、など)、職業 (会社員、先生、など)、一語、など
3	好きな物・好きなこと	自分の好きな食べ物やスポーツ、趣味について説明できる。クラスメートの好きなものについて聞いて理解できる。好きなものについての簡単な質問をしたり、質問に答えたりできる。	動詞文1 (Vます) ～が好きです 形容詞文1 (Ai/Na です、Ai くないです、Na じゃないです)	食べ物・飲み物 (ごはん、パン、やさい、コーヒーなど)、趣味・娯楽 (サッカー、テニス、音楽など)、頻度と量、100 万までの数、一円、一年、など
4	わたしの一日	適切な動詞や時の表現を使って、自分の生活の簡単な紹介ができる。クラスメートの生活の紹介を聞いて理解できる。日常生活についての簡単な質問をしたり、質問に答えたりできる。	動詞文2 (Vません) 助詞 (に、で、から、まで、か)	曜日、時間 (一時一分)、朝、昼、夜、場所 (学校、図書館、駅など)、移動手段 (電車、自転車など)、活動 (仕事、会議、研究、勉強、など)
5	週末	週末をどのように過ごすかを説明できる。クラスメートの週末にしたことの紹介を聞いて理解できる。週末にしたことについての簡単な質問をしたり、質問に答えたりできる。	動詞文3 (Vました) 形容詞文2 (Ai かったです、Na でした) Ai いN、Na なN	先週/今週/来週、去年/今年/来年、昨日/今日/明日、月日の言い方 (～月～日)、一週間、一ヶ月、一年 (間)、食べ物・料理・飲み物 (肉、魚、さしみ、インド料理、ビール、ジュースなど)、店 (一の店、一屋、スーパー、デパート)、日用品、衣類 (食器、ボールペン、シャツなど)、など
6	わたしの国、わたしのまち (1)	自分の国について簡単な紹介ができる。クラスメートの国の紹介を聞いて理解できる。クラスメートとお互いの国についての簡単な質問をしたり、質問に答えたりできる。誘いの表現を使って誘ったり、それを受けたりすることができる。	あります・います 形容詞の接続 (Ai くて、Na で～) 指示詞 (こそあど) 誘いの表現 (～ませんか、～ましょう、～ましょうか)	東、西、南、北、会社や観光地、公的施設 (バネソニック、お寺、公園、市役所など)、イベント、行事 (お祭り、大学祭、バザー、飲み会など)、一方 (読み方、書き方など)
7	わたしの国、わたしのまち (2)	自分の国と日本について比較して説明できる。クラスメートの国と日本の比較を聞いて理解できる。さまざまな国を比較して質問したり、質問に答えたりできる。	比較 (どちらのほうが～ですか、～より～のほうが～です、～がいちばん～です)	たいたい/まったく同じです、少し/ぜんぜん/～によって違います、面積・人口・物価、多い、高い、からい、おいしい、静か、年上/年下、背が高いなど
8	京都に行きたいと思っています	日本での経験や、これからしたいことについて説明できる。クラスメートの日本での経験や、これからしたいことを聞いて理解できる。日本での経験やこれからしたいことについて、クラスメートと話し合うことができる。	～したいです ～したいと思っています ～たことがあります	春夏秋冬、気候 (あたたかいです、さわやかです、など)、季節の風物 (サクラ、紅葉、など)、休暇 (夏休みなど)、日本文化 (カラオケ、着物、マンガ、など)
9	結婚式	自国の結婚式の習慣やルールについて説明できる。日本やクラスメートの国の結婚式について聞いて理解できる。さまざまな国の習慣やルールについて、質問したり、質問に答えたりできる。	～てください ～てはいけません	身につけるもの (シャツを着ます、ズボンをはきます、など)、儀式 (結婚式、入学式、など)
10	私の尊敬する人	自分の尊敬する人について、「～ています」を使って説明できる。クラスメートの尊敬する人について聞いて理解できる。クラスメートとお互いの尊敬する人について簡単な質問をしたり、質問に答えたりできる。動作を表す「～ています」を使って人の様子を説明できる。	～ています ～て～ ～でした	家族・親戚 (おじさん、おばさん、など)、専門・職業 (外交官、学長、など)、学歴 (～を卒業しました、など)
11	いろいろな買い物をしなければなりません	「～ないでください」を使った注意事項が理解できる。日常生活において、自分のしなければならぬことについて説明できる。クラスメートのしなければならぬことについて聞いて理解できる。	～ないでください ～なければなりません	学校のことば (欠席、遅刻、連絡、など)、生活のことば (買い物、そうじ、など)
12	少し休んだほうがいいです	「～たほうがいいです」を使ったアドバイスが理解できる。クラスメートに簡単なアドバイスをすることができる。	～たほうがいいです ～たり～たりします そして・だから	身体部位・症状 (頭、足、熱があります、など)、気候 (晴れ、雪、台風、など)、強い/弱い

付録資料3

A New Approach to Elementary Japanese for Graduate Students, Vol. IIのユニットごとの目標、主要な文法項目と語彙のリスト

ユニット	テーマ	目標	文法項目	語彙
13	毎日の生活	毎日の生活について、時間的な順序等に配慮しながら説明ができる。クラスメートの生活の様子を聞いて理解できる。毎日の生活について質問をしたり、答えたりできる。	～たら ～てから ～とき ～ながら	生活のことは1 (歯をみがきます、手を洗います、徹夜します、など)、研究のことは1 (研究室に行きます、実験の準備をします、など)
14	本を読むのが大好きです	自分の趣味や好きなことについて説明できる。クラスメートの趣味や好きなことを聞いて理解できる。趣味や好きなことについて質問をしたり、質問に答えたりできる。	辞書形 Vの/こと	趣味・好きなこと (本を読みます、ドラマを見ます、など)、一室 (研究室、実験室など)、研究のことは2 (実験の予定を考えます、実験の方法を勉強します、など)
15	わたしの将来	自分の将来の予定や希望について説明できる。クラスメートの将来の予定や希望について聞いて理解できる。自分の将来の予定や希望について質問をしたり、質問に答えたりできる。	普通形 ～つもりです ～と思います ～かもしれません ～かどうか、わかりません	専門 (一学、一の研究、一の開発)、進学と就職 (大学院の試験を受けます、日本で就職します、など)
16	わたしは英語が話せます	自分のできること、できないことについて説明できる。クラスメートのできること、できないことについて説明を聞いて理解できる。できること、できないことについて質問をしたり、質問に答えたりできる。	可能形	一立 (私立、公立、国立)、言語学習 (文法、発音、作文、など)
17	プレゼント	来日時、誕生日、クリスマスなどにあげたりもらったりしたプレゼントについて説明できる。クラスメートのあげたりもらったりしたプレゼントの説明を聞いて理解できる。プレゼントについて質問をしたり、質問に答えたりできる。	授受動詞	イベント (クリスマス、誕生日、など)、プレゼント (時計、さいふ、花、お祝い、など)
18	いろいろな人に助けられました	自分がしてもらったことについて簡単な説明ができる。クラスメートがしてもらったことについて説明を聞いて理解できる。今までにってもらったことについて質問をしたり、質問に答えたりできる。	Vてもらいます/ くれます/くださ います	施設と人 (大使館、空港、秘書、など)、いろいろな手続き (書類を読む、住所を書く、など)、旅行と準備 (荷物のパッキングを手伝う、など)、気持ちをあらわすことば (悲しい、嬉しい、など)
19	モノレールもあるそうです	他の人から聞いた、自分が行ったことのない場所の様子について簡単な説明ができる。自分の所属する大学院や研究室の様子について簡単な説明ができる。クラスメートの知っている場所や研究室の様子について説明を聞いて理解できる。いろいろな場所や研究室の様子について質問をしたり、質問に答えたりできる。	～そうです (伝聞、様態)	研究のことは3 (学会、発表会、一に出席する、など)、経験 (初めて、一回目)、一内、一外 (国内、市内、など)、一という一
20	父によくほめられました	子どもの頃、家族こされたことについて説明できる。研究室の指導教員にどんなことをよく頼まれるかについて説明できる。クラスメートが家族こされたこと、先生に頼まれたことについて説明を聞いて理解できる。今までにこされたことについて質問をしたり、質問に答えたりできる。	受身形1 ～ように言われました	成績 (成績がいい、いい成績をとる、など)、いろいろな仕事 (後輩の世話をする、コピーを頼む、など)、ゲーム (テレビゲーム、DS、など)
21	母は、兄に野菜を食べさせました	子どもの頃、両親が自分や兄弟にさせたことについて説明できる。両親がクラスメートにさせたことについての説明を聞いて理解できる。これらの内容に関する質問に答えたり、質問をしたりできる。	使役形 一 (さ) せてくれました ました 一 (さ) せようと しました 一てほしい	食べ物 (ハンバーガー、フライドチキン、など)、一手 (選手、運転手、歌手)、卒業と就職 (一を卒業する、父の仕事を継ぐ、など)
22	漢字を何回も書かされました	先生からうけた指導と、それによって何ができるようになったかについて説明できる。クラスメートが先生からうけた指導や、それによってできるようになったことについての説明を聞いて理解できる。先生からうけた指導や、それによってできるようになったことについて質問をしたり、質問に答えたりできる。	使役受身	量と頻度 (1日に10こ、1週間に1回、など)、研究のことは4 (ゼミ、ディスカッション、質問、など)、最一 (最新の、最大の、最高の)
23	ひどい一日	生活の中で経験した大変な出来事について説明できる。クラスメートが生活の中で経験した大変な出来事についての説明を聞いて理解できる。生活の中で経験した大変な出来事について質問をしたり、質問に答えたりできる。	受身形2	動物・昆虫 (犬、蚊、蜂、一がほえる、など)、生活のことは2 (かばんを開ける/忘れる、など)、辞書とパソコン (電子辞書、パソコン、ファイル、プリンターで資料を印刷する、など)
24	日本では、日本語が話されています	母国や日本の言語・社会の状況について、簡単に説明できる。クラスメートの母国等の言語・社会の状況について説明を聞いて理解できる。さまざまな国の言語・社会の状況について質問をしたり、質問に答えたりできる。	受身形3 一と一 (条件)	時を表すことば (昔、今、最近、一年前)、産業 (漁業、農業、など)、色 (赤、青、白、など)